



眉山のふもとで  
毎日のくらしと  
名もないドラマが  
歴史を作る

私たちはこれからの未来に  
どんなドラマを残すのだろうか

私たちは今、  
歴史から続いた一筋の道の上

あしたという未来のふもと

ふもと研究会

## 研究員のふもと巡り

研究員(光永)が眉山のふもとに心ひかれたきっかけを第1号でお話しましたが、もうひとつ、じわじわとふもとへの興味を増すきっかけをつくってくれたのが『持明院』です。

徳島市寺町にある、春日神社(徳島市眉山町大滝山1)の裏山—大滝山—にはかつて徳島一の隆盛を誇った『持明院』が存在していました。戦前までの徳島市は、その観光資源を“阿波踊り”と“持明院”としていたほど。

しかしその持明院は、1945年、徳島大空襲で焼失。

もちろん、持明院だけではありません。多くの暮らし、自然、文化財・・・つまり命あるもの、命をつないで守ってきたものが焼けてしまいました。

徳島は、この失ってしまったものの大きさに、未だ決着がつけられないまま、先送りの戦後を今日まで過ごしてきたような気がするのです。

—では、決着をつけることとは何なのか。

—今の私たちは一体何を見つめたらいいのか。

ただ、こんなことを感じたのも、この持明院の存在を知り、その史跡を訪ねたからでした。

次回から持明院について知り得たことなどを、少しずつ紹介していきたいと思えます。

研究員光永





情報の巣箱より

# わたしと麓ふもと

vol. 07

自宅のある眉山の南から蔵本運動公園まで、眉山の麓半周の中で成長した息子との記憶。  
 眉山に遊び、季節を楽しみ、十年余り。早夏よりプール、秋冬は陸上トレニングと、毎日眉山の麓を行ったり来たりの中、学んだこと。  
 子供は家族だけで育つものではなく、隣近所の方々、監督、コーチ、先輩達に学び助けられ育つということ。  
 我慢すること、自信を与えられること、叱咤激励を受けること、少しのことで共に喜び合えること、人を信頼すること、また信頼してもらえようように努力すること。

と、等々。たくさん  
 のことを眉山の麓で  
 学んだ。  
 そして、子供だけでなく、成長する子供と共に、私も母親に育ててもらえた。  
 もう、二十数年前のこと。子育て中の、楽しい眉山の思い出である。

アロマテラピースクール  
 「カラザ」 金森 弘華



## 学生支援室だより

No7



学生と社会人が共同して学び合うクラスを立ち上げ、互いに思い切り議論し、理解し、知恵をつけ、豊かな人生を目指す—新しい学びの場—がこの度誕生しました。

なぜ、このような場を設定したかと申しますと…この取り組みでは社会人の方が参加できる講義が数多くあります。ですが、社会人の方が活躍し過ぎても困る、それはあくまでも学生さんが主役だからです。しかし、それでは社会人の方々の消化不良があるのではないかとでは、思い切り語れる場所を作ってしまう！そうして、この場が生まれました。名前は「談話の和声学（ハーモニー）」「ふれあいアワーズ」「アクティブトークング」などいろいろ案を出していただき、「水曜学舎」に決定しました。

毎週水曜、16時30分から学生支援室にて行っています。第2回目となる5月12日（水）は社会人ボランティアの一人が話題提供をしてくださいました。テーマは「これからの明るい未来を考える、でした。暗い話題の多い現在の日本、では明るい未来にするためにはどうしたらいいのか？まずご自分の考えを披露していただき、その後参加者の知恵を集めました。学生1名、社会人7名、教員2名がざっくばらんに意見を述べ合い、時に議論を戦わせ、学びの場は大いに盛り上がりました。翌週はまた別の社会人ボランティアの方が話題提供してください、順番に思うところを大いに述べていただいています。

—新しい学びの場—あなたの思いを、あなたの言葉で、思う存分語ってみませんか？  
 （文責：境 裕美）



学生支援室 Tel:088-656-7205

HP :<http://w3.ias.tokushima-u.ac.jp/sgp>